

流量計算表

協議番号第 [ ] 号

[ ] : 入力

【別表 1】

NO.	流入先	《 計画水量 》			《 排水施設能力 》										備考			
		面積 A1 ha	追加面積 A ha	暗渠 or 開渠	安全率	Q1 m3/S	流出量 計画流量 m3/S	管種	断面 B*H, φ mm	断面積 A m2	粗度係数 n	径深 R m	勾配 I ‰	流速 V m/S		流量 Q m3/S		
②		③	④	⑤	1.5	0.0334	0.0501	⑥	⑦	0.0707	⑧	0.0750	⑨	1.052	0.074			
1		0.130	0.130	暗	1.5	0.0719	0.1079	円	φ 300	0.1257	0.010	0.1000	2.0	0.964	0.121			
2		0.150	0.280	暗	1.3	0.1283	0.1668		400 × 500	0.2000	0.013	0.1429	3.5	1.244	0.249			
3	⑩	0.220	0.500	開	1.5	0.6417	0.9626		900 × 800	0.7200	0.013	0.2880	2.0	1.500	1.080	既設水路		
4		2.500	2.500	暗	1.3	0.77	1.001		900 × 800	0.7200	0.013	0.2880	2.0	1.500	1.080	既設水路		
5			3.000	開	1.3	0.3337	0.4338		800 × 700	0.5600	0.014	0.2545	2.0	1.283	0.719	既設水路		
6		1.300	1.300	開	1.3	1.1037	1.4348		1,000 × 1,000	1.0000	0.013	0.3333	2.0	1.654	1.654	既設水路		
7			4.300	開	1.3													

① = 流出係数

⑧ = 排水管渠の粗度係数

② = 排水施設の管番号

⑨ = 排水管渠の勾配 (‰)

③ = 排水面積 (ha)

⑩ = 流出先の管番号

④ = 追加面積 (ha)

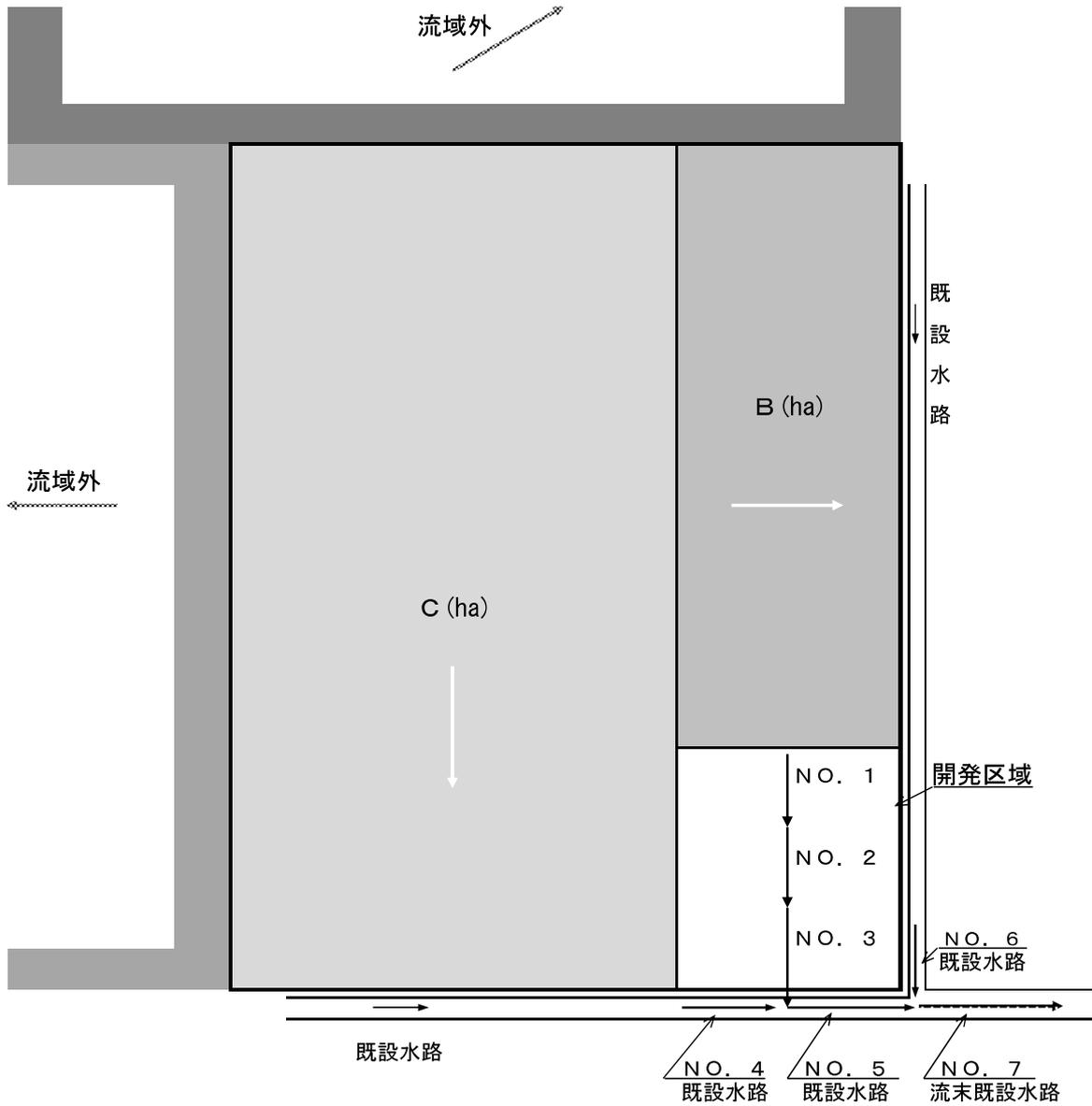
⑤ = 暗渠または、開渠

⑥ = 円形管の時、“円”

⑦ = 排水施設の断面 (mm)

【別図 1】

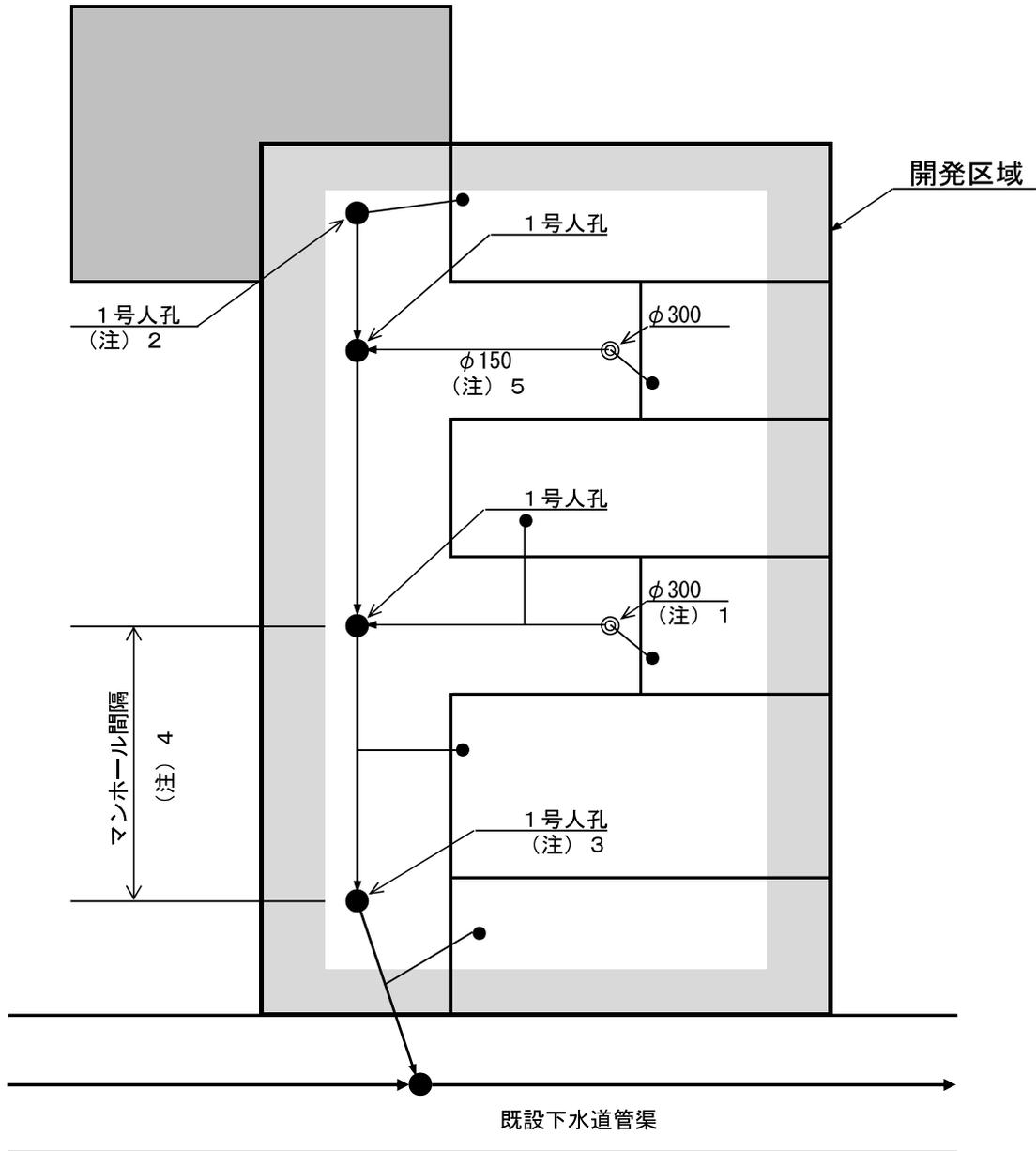
## 下水道計画流域図



1. 流末雨水管渠の設計は、その管渠に係る全流域の面積により算定する。
2. 開発許可申請書（法32条申請書）申請時には、流域図を添付すること。

【別図2】

下水道計画標準図1（汚水）



(注)

1. 末端のマンホールについては、小口径マンホールφ300（人孔深2.5m未満）を設置することができる。
2. の箇所有家屋がある場合は小口径マンホールφ300（人孔深2.5m未満）を設置ことができ、それ以外で将来流入が予想される場合は1号人孔を設置する。
3. 中間点において、将来流入が予想される箇所は、1号人孔を設置する。将来流入が予想されない場合は小口径マンホールφ300（人孔深2.5m未満）を設置することができる。
4. マンホールの最大間隔は、75mとする。

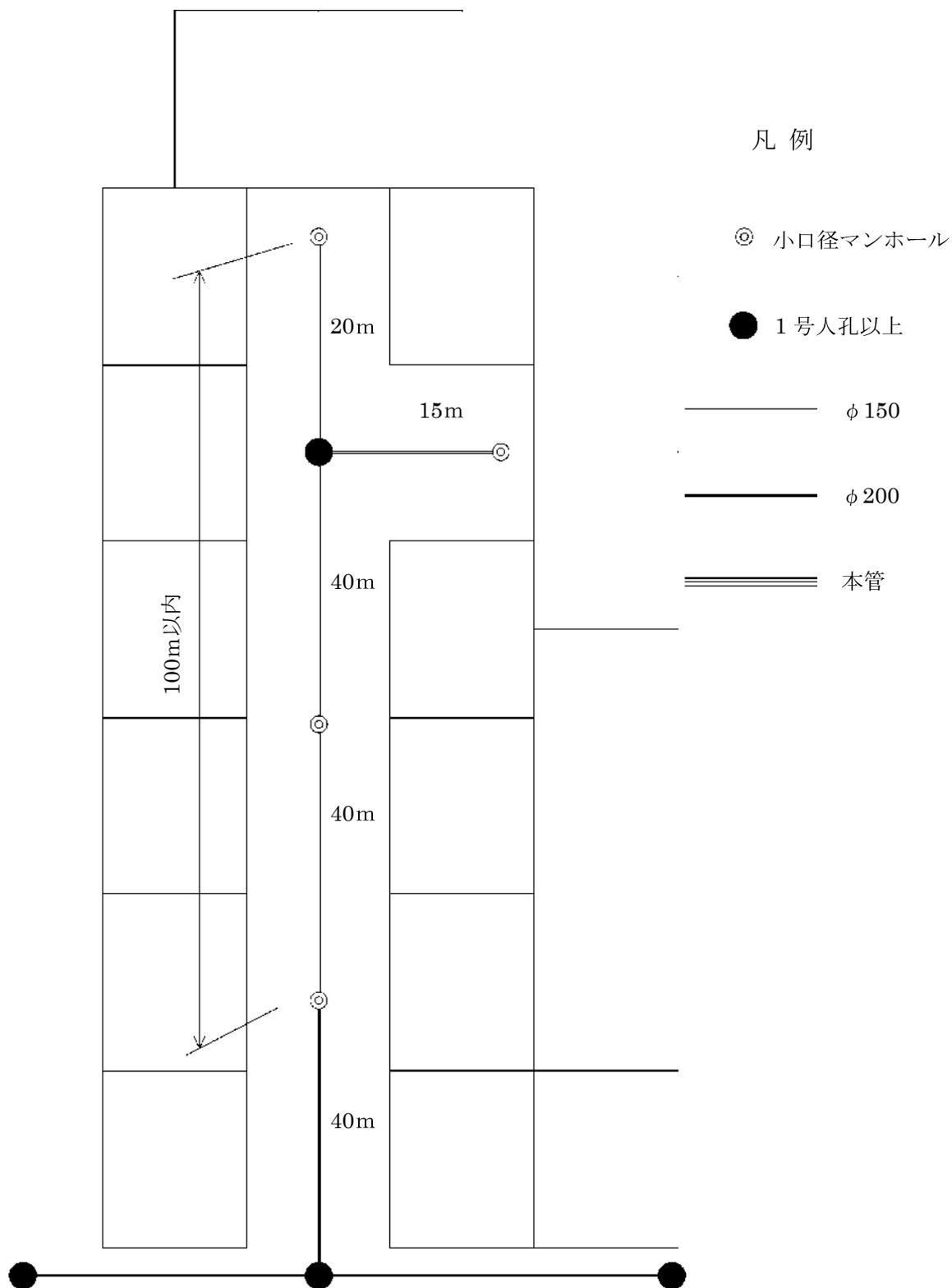
管径別マンホール最大間隔

管径 (mm)	600以下	1,000以下	1,500以下	1,650以下
最大間隔 (m)	75	100	150	200

5. 将来流入が予想されない末端の汚水管は塩ビφ150、勾配4‰以上とする。
6. 第一樹は、掘削深が2.5m未満の場合は塩ビ樹φ200（マルチタイプ）とする。なお、掘削深が2.5m以上の場合は0号人孔とする。また、樹には必ず管理用蓋を設け、重量物が頻繁に踏むおそれがあるところには、鉄蓋を設置する。

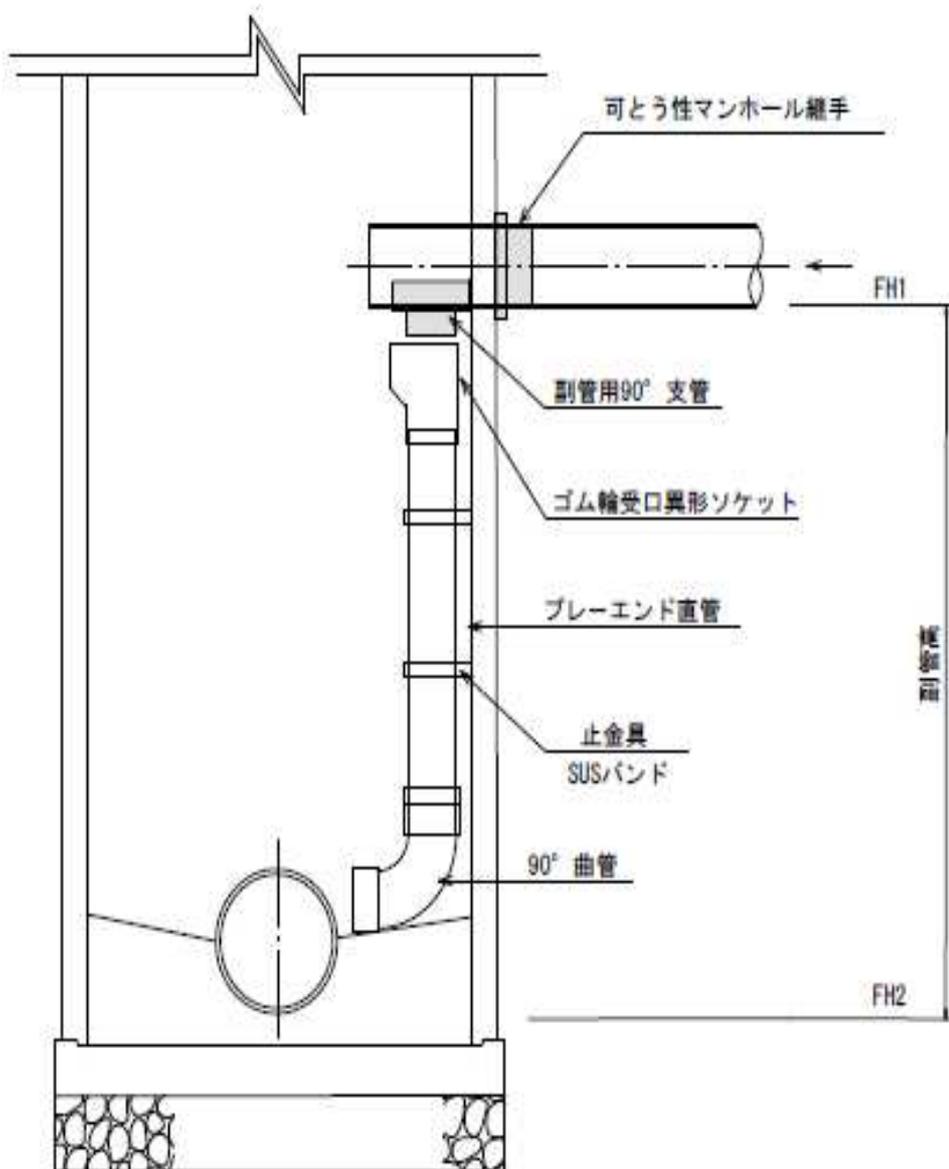
【別図3】

下水道計画標準図2（汚水）



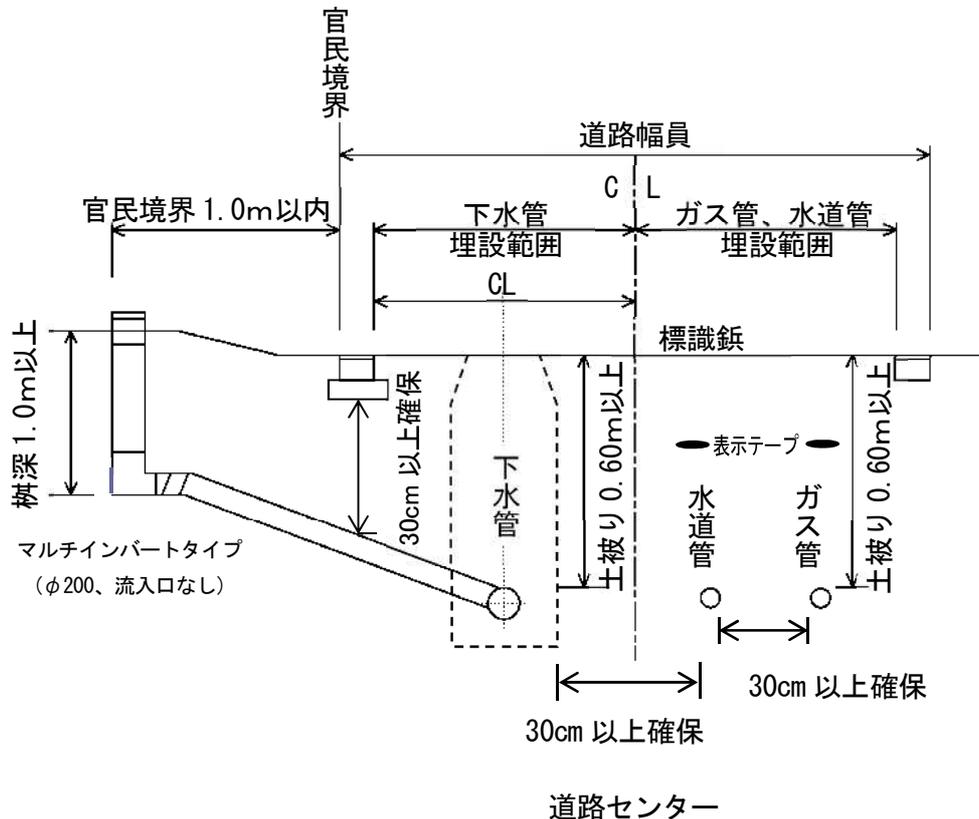
【別図 4】

### 内副管設置標準断面図



【別図5】

開発道路内のガス管、水道管、下水管  
の埋設位置について

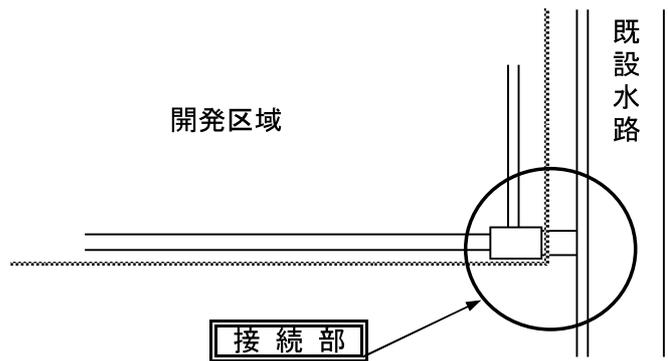


1. ガス管及び水道管と下水管の埋設位置は上記標準断面図の通り、道路のセンターを境に区別し原則として下水管に関しては上記図面の下水道埋設範囲の中心になるよう設置すること。下水管（支線）の土被りについては、舗装の厚さ（AS舗装厚＋路盤厚）に0.3mを加えた値（当該値が0.6mに満たない場合には0.6m）以上とする。なお、下水管の取扱いについては、管理者と事前に別途協議すること。
2. ガス管と水道管の離隔は、30cm以上確保する。  
なお、給水管（引込管）の当該離隔を確保するため、必要に応じて水道管の埋設位置を下方に変更すること。
3. ガス管及び水道管と下水人孔との離隔は、30cm以上確保する。
4. 開発許可申請書（法32条申請書）申請時には、水道管、ガス管、下水管の埋設位置及び離隔を明記した標準断面図を添付すること。

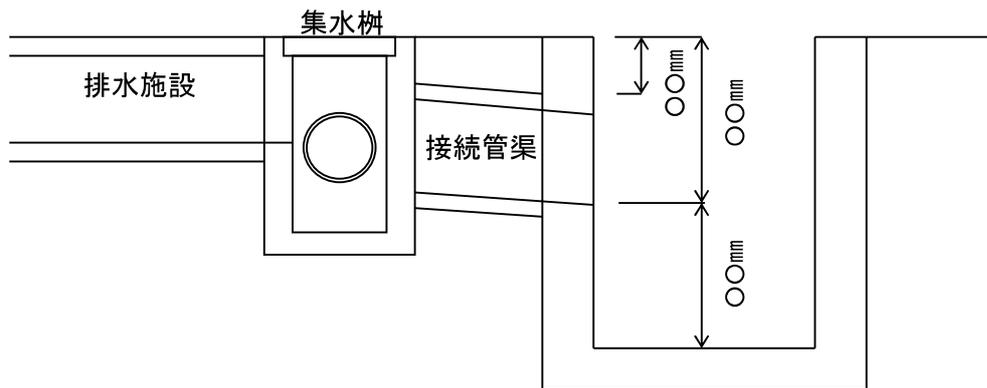
【別図6】

既設水路及び既設管渠との接続部について

平面図



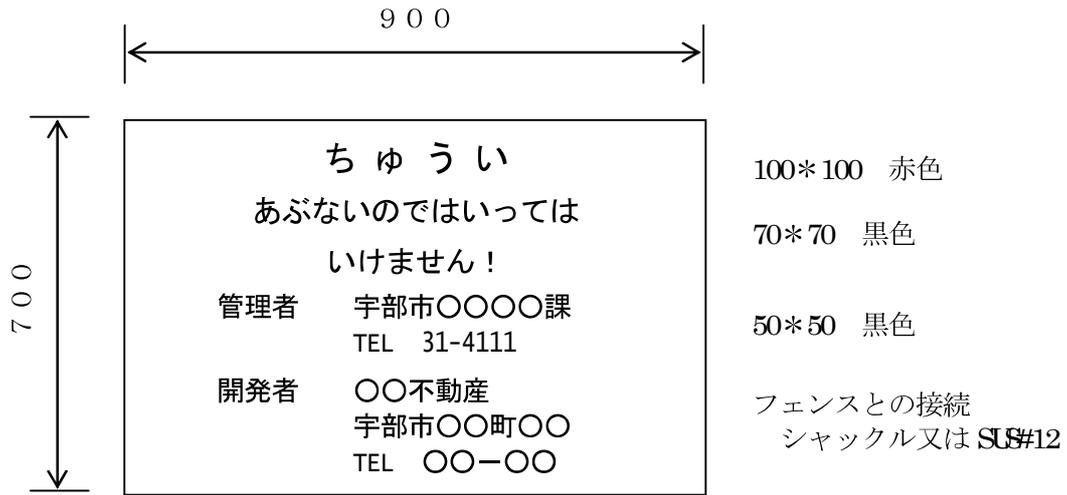
断面図



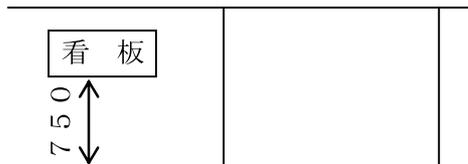
1. 既設水路及び管渠との接続部については、平面図に位置を明記し、断面図を添付すること。

【別図 7】

調整池看板標準図

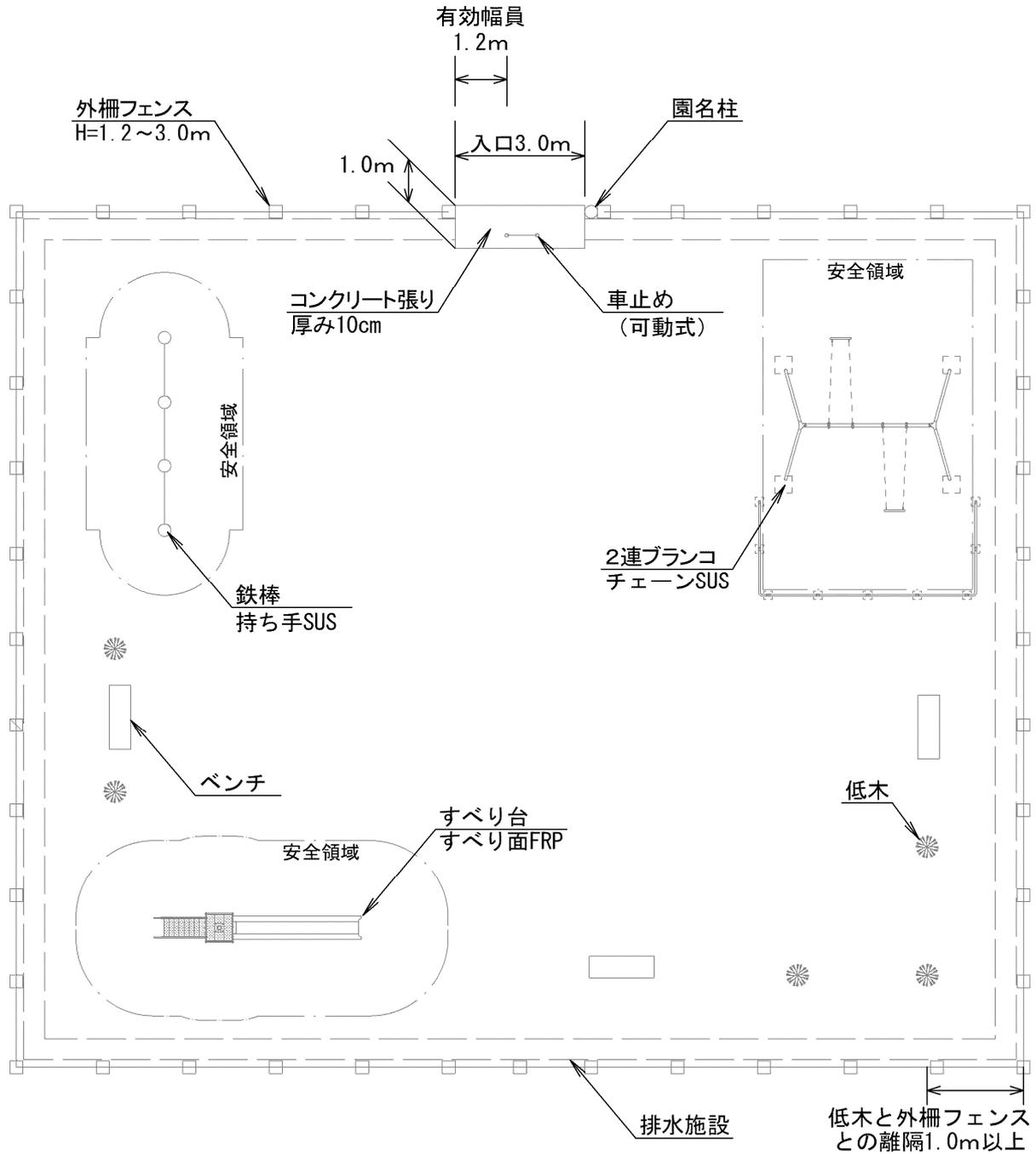


材 質：硬質プラスチック板 t = 3mm以上（白色）  
文字体：ゴシック体



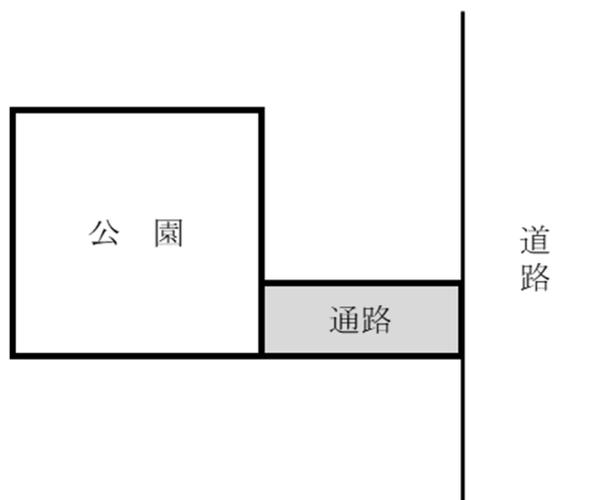
【別図 8】

公園計画平面図



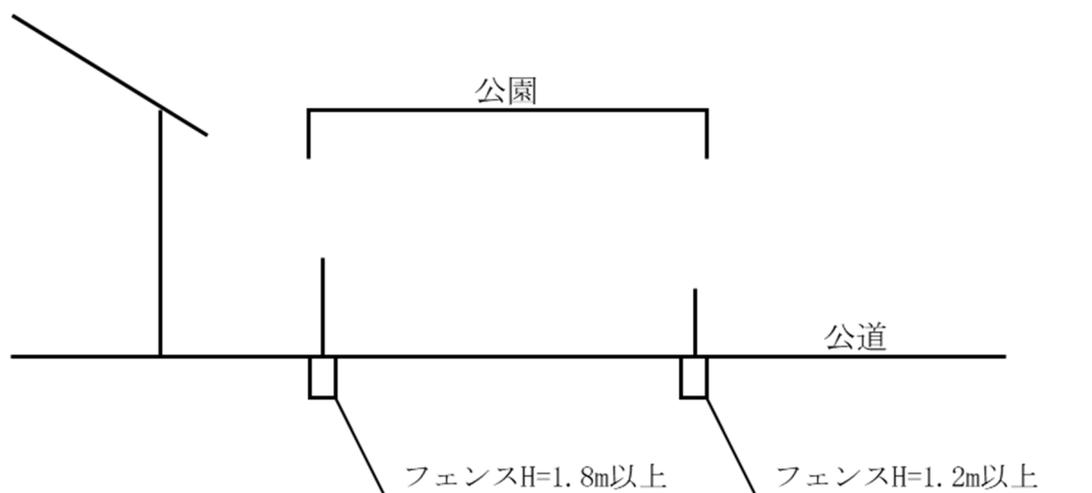
- ※ 遊具については安全領域を確保して設置すること。  
 安全領域は、落下高さが 600mm を超える場合は、遊具の外側からあらゆる方法に 1800mm 以上確保し、落下高さが 600mm を以下の場合は、遊具の外側からあらゆる方法に 1500mm 以上確保します。

### 公園として望ましくない例



※止むを得ず公園敷地が旗竿となる場合は、通路幅員は3 m以上とし、有効面積には含まない。

### フェンスの設置例



※宅地側のフェンスについては高さ1.8m以上とし、プライバシーに考慮した構造にすること。

【別図 9】

# 側溝屈曲部施工図

300Aの場合

